

/物流の「三つのリスク」を3ステップで解決/

2 労働カリスク

物流の担い手が

不足する

1 環境リスク

物流によりCO₂/廃棄物が 排出される







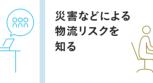






物流労働力の 状況· 今後の動向を 知る





3 災害リスク

災害等発生時に

物流が止まる恐れがある

13 24500

「見える化する STEP2

CO₂/廃棄物の 排出量を 見える化する

CO₂/廃棄物の

今後の動向を

現行制度

知る



事務の 人員・工数を 見える化する



災害などの 物流リスクを 想定/ 見える化する



STEP3 「改善する」

CO₂/廃棄物の 排出量を 削減/相殺する



作業/輸送/ 事務を効率化・ 自動化し、 少人化する

の実現に向けて一層、

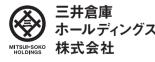
ていく考えだ。











〒105-0003 東京都港区西新橋3-20-1 https://www.mitsui-soko.com/ sustainalink/



物流が直面するリスクを可視化して改善 お客さまのビジネスを止めない」新サービス

いかに顧客の物流やサプライチェーンのサステナビリティ(持続可能性)を支えていけるか――。 いまや物流事業者の価値や存在意義は、その解決能力にかかっているともいえる。三井倉庫ホールディングスは、 いち早くその課題に正面から向き合い、パッケージ化されたソリューション「SustainaLink」を提示した。

てきた物流が当たり前でなくな にモノづくりや消費活動を支え 氏も「これまで当たり前のよう つつある状況の中で、

同社戦略営業部長の伊藤智光

化し、その持続可能性に黄信号 物流を巡る新たなリスクが顕在 ルスの感染拡大 ディングス(HD)では物流の持 要請も日増しに高まっている。 められるなど、物流への社会的 現に向けた新たな取り組みが求 やESG経営の重要性が増す がともり始めている。SDGs 続可能性を支援していく新たな そうした中、三井倉庫ホー ービス「SustainaLink(サス カーボンニュー 、リンク)」の提供を開始した そして新型コロナウイ 頻発・甚大化する自 トラルの実 では、サステナリンクとはど

なげる。 化した上で、 特徴です」(野口氏)。 ジにしたことがこのサ 分かりやすく整理してパッケ を網羅的に捉え、 物流におけるさまざまなリスク さまでもサステナビリティに関 することができる。「どんなお客 在地がどこなのかを簡単に把握 社の課題がどこにあるのか、 九つのマトリックスによって自 して何らかの課題をお持ちです このうち環境リスク対応では 利用者にとっては、 その一連のプロセスを 具体的な改善につ 現状を見える 3 × 3 Ø ービスの

サービスが必要との思いから、客さまのビジネスを止めない』

た」と開発の背景を語る。

サステナリ

ンクを構想しまし

まっています。

そこで、

物流が

直面するリスクに対応した

界中で進むなど、

持続可能なS

イチェーン (SC)

の混乱が世

Cを構築する必要性が改めて高

コロナの感染拡大によりサプラ

長の野口敏氏は「足元では新型

同社経営企画部ESG推進室

化」というサ CO2排出量の ービスが注目を集 「測定=見える 考えました」と思いを述べる。 が物流事業者としての責務であ 社として何ができるのか。 今後の競争力を左右すると 持続可能な物流の構築こそ の多くが、

子高齢化による労働力不

リスクの「現在地」を把握 トリックスを使って

通じて課題解決に導く →「改善」という3ステップを 「知る」→「可視化(見える化)」 で、それぞれのリスクについて 「災害」の三つに分類。 のリスクを「環境」「労働力」 物流やSCを継続していく上で のようなサービスなのか。 その上 まず

対応では立ちゆかな 問題があるというの その精度や信頼性に O²排出量を把握で ℃で排出している℃ らに高まり、現状の けた社会的要請はさ 今後は脱炭素化に向 が現状です。 できていたとしても きていないか、 くなります。 自社のS しかし、 まずは 仮に

るほか、 者認証機関からの妥当性評価の でなく国際輸送にも対応してい 量の可視化では、国内輸送だけ 取得を予定するなど、 も配慮して いる。

かった中、 ると、 がらもなかなか手が付けられな ビリティについて課題を感じな って背中を押されたお客さまも と伊藤氏。「お客さまの側からす さまが徐々に増えてきまり 取り組みをスタ んだ上で、 以前から自 (秘密保持契約) 当社からの提案によ 当社との二人三脚で 社のサステナ トされるお客 した」

めている。「荷主企業

排出量の可視化を通

が重要です」(伊藤氏)。 サステナリンクのCO2排出 算定手法について第三 信頼性に

三つのリスク全てへの対応を同

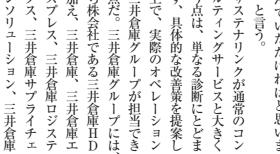
また、野口氏は

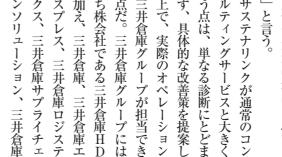
「お客さまは

時並行で進める必要はなく、

た上で、 違う点は、 クスプレス、 ルティングサー ンソリューション、 三井倉庫、

持ち株会社である三井倉庫HD す」と言う 選んでいただければと思いま 社の課題に応じて優先テーマを る点だ。三井倉庫グループには も三井倉庫グループが担当でき サステナリンクが通常のコン 具体的な改善策を提案し 実際のオペレーション 単なる診断にとどま 三井倉庫ロジステ ビスと大きく 三井倉庫エ







三井倉庫ホールディングス 野口 敏 経営企画部ESG推進室長



三井倉庫ホールディングス 伊藤智光

ことで、 がデジタル化だ。 今後3年間で総額100億円 タプラッ DX投資を実行していく。「デ ループのDX戦略を策定し、 各種作業の見える化や トフォ ムを構築する

客さまの事業継続リスクの軽減

に役立つはずです」(伊藤氏)

空論ではない、現場力に裏付け

経験が強みを発揮する。「モーダ 間で大量のモノを動かしている

机上の

きることがわれわれの最大の強

の提示、

共同物流の提案など、 やバックアップル

実現していく上で欠かせないの

さらに、サステナビリテ

な

ます」(野口氏)。

ータ解析の精度が格段に上が

ビスの深化を実現

られたソリュー

ション提案をで

能。「実際にモノを動かしている

による物流サ

ービスの提供が可

の分散化などについても、 た代替輸送ルートの確保や在庫

数多

くの倉庫拠点を持ち、

日々拠点

核事業会社があり、

国内から国

トという五つの中

みです」(伊藤氏)。

災害リスクに対応し

はの、引き出し、

の多さが、

お

フルスペック物流事業者ならで

川上から川下まで一気通貫

をサポー 応では、 どにより自動化機器の導入など きるようになるという。 削減などもデジタル化で貢献で など顧客自身の事務作業の工数 例えば、 作業分析の精度向上な 労働力リスクへの対 していくほか、

内容を深く、 じてサステナリンクのサービス 「今後も、 デジタル化などを通 進化させていきま

す。グループ全体でもお客さま (野口氏) と、「止めない物流 内体制も強化していきます。 に社員向けの研修の強化など社 への提案力を底上げできるよう